

甲斐駒ヶ岳（2967m）と仙丈ヶ岳（3033m）

日本百名山

2019年8月6日 Shiba

北沢峠を基点に南の仙丈ヶ岳と向き合う甲斐駒ヶ岳は、全国に数ある駒ヶ岳の中で一番の高さを誇る山であり、その三角の凛々しい容姿は人々を魅了する。一方、仙丈ヶ岳は山上に山小屋もあり、アプローチもたやすい。しかし標高は甲斐駒ヶ岳を超えること 3,033m あり、雄大さでは引けをとらない。

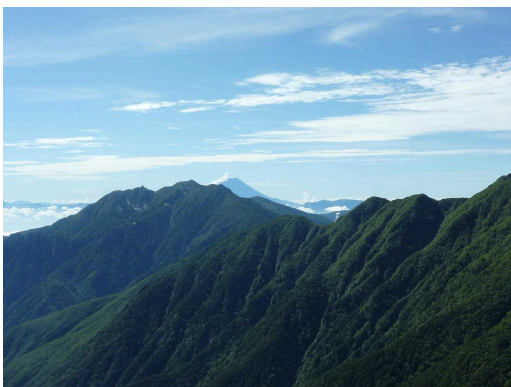
一旦は7月中頃の設定で予定を組んだ。懸念していたとおりの天候不順によりあえなく頓挫してしまった。台風8号の影響が心配であったが、登頂初日までは持ちこたえてくれそうであったため、リベンジとしてあえて決行した。また、南アルプスの中で西側からアプローチできる山は関西からでも自家用車での便が良いので、今回は自家用車利用にした。仙流荘でシャトルバスに乗り換え北沢峠へ。バス停そばのこもれび山荘に2泊、さらに仙丈ヶ岳山頂直下の仙丈小屋に1泊のゆくりペースでトライした。

(8月6日)

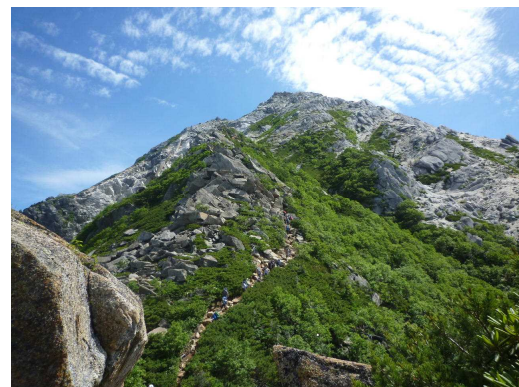
初日の目標は甲斐駒ヶ岳である。事前の予定では6:00の出発としていたが、山荘の朝食時間が4:00からだったので、余裕をもって5:30には出発することができた。しかし、下山組みの人達は別として、登山組みの中ではどん尻の方だった。

まずは、長衛小屋へ向かうが、10分程で到着。ここからは沢伝いに緩やかに登っていく。途中に仙水小屋があるが、ロープが張られ関係者以外立ち入り禁止となっているが、小屋の中を見ると電気は点っていた。

長衛小屋を出発して1時間程で仙水峠に着く。ここからは甲斐駒ヶ岳を仰ぎ見ることが出来る。また北側には少し開けており、奥秩父らしき山々が見える。鳳凰三山のあの尖ったオベリスクも確認できる。ここからはいよいよ急登が始まる。さらに1時間30分程で駒津峰に到着。ここはもう既に南アルプスの展望台の1つである。天候・視界も抜群、なんでも見える。目の前にはこれから目指す甲斐駒ヶ岳、後ろにはもちろん仙丈ヶ岳、鳳凰三山と重なって富士山、北岳、御嶽山、乗鞍、穂高や槍の北アルプスも。出発して4時間強経つので、エネルギー補給のためここで弁当を半分食



駒津峰から見る鳳凰三山と富士山



六法石付近から見上げる甲斐駒ヶ岳

べる。

ここから六法石までは下りの行程。六法石から 1～2 分程のところ直登コースと巻き道コースの分岐点があるが、われわれは巻き道コースへ。ほとんどの人は巻き道コースを選択しているようで、直登コースを選択している人は、見える範囲では1パーティぐらいしかいない。この最後の登攀の途中ぐらいいから遠くでも近くでも雲が湧き上がり始めてくる。気はあせるが、足元がザレ場のため登りづらい。10:50 に山頂に到着。遠くの山には雲が掛かり始めていたが眺望は十二分に満足のものであった。



甲斐駒ヶ岳から見る仙丈ヶ岳

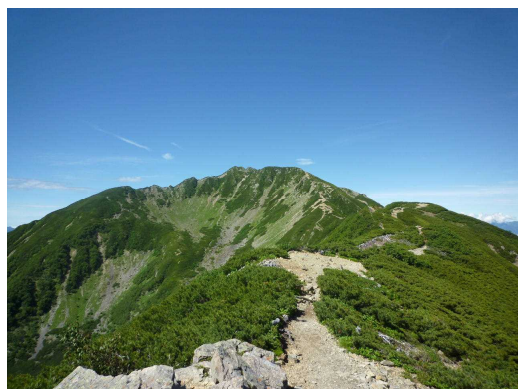
帰りは駒津峰から双児山を経由するコースを選択、最後の 30 分程は急な夕立に遭いながら 15:10 に小屋に帰着した。

(8月7日)

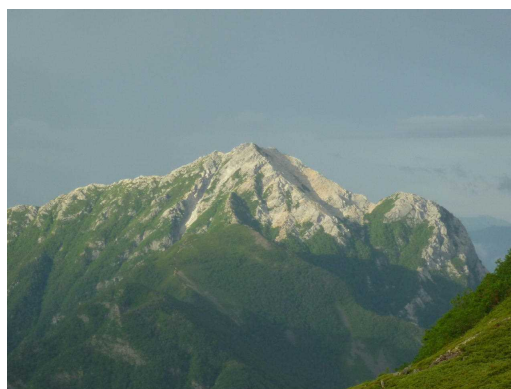
家を出る時点での本日分の天気予報は最悪マークであった。こもれば山荘は山間にあり、木々も茂っているため。空が良く見えない。しかし、朝外に出て見上げてみると、少しは青そうに見え、天候は大丈夫そうに感じられる。

本日は仙丈小屋泊まりなのでゆっくり目の 6:05 に出発。バス停の手洗い場のすぐ横にある登山口から樹林帯の中を穏やかに登っていく。合毎に標識がある。登り口の標高が 2030m で頂上が 3033m なので 1 合当たり 100m の目安で分かりがいい。約 2 時間弱で五合目である大滝ノ頭に着く。更に 20 分ぐらいい登ると視界が開けだし、振り返ると甲斐駒ヶ岳の雄姿が見え出してくる。ここからはキョロキョロと変わり行く周りの景色を確かめながらの登りである。鳳凰三山のオリベスクや北岳と富士山の共演も見れる。小仙丈ヶ岳まで来ると山頂はもう直ぐだ。ハイ松であろう濃い緑のなかに続く稜線の道。左手には大きなカールそしてその先には仙丈ヶ岳が鎮座しているという感じだ。

仙丈ヶ岳には 10:55 に到着。昨日に続き今日も好天候に恵まれ感謝感謝。40 分近くの休



小仙丈ヶ岳から見る仙丈ヶ岳



雨上がりの仙丈小屋から見る甲斐駒ヶ岳

憩で景色を満喫すると、次はビール欲しくない。あとは眼下の仙丈小屋を目指のみだ。

北沢峠こもれび山荘の朝食時間は 4:00~6:00 で他の山荘よりも設定時間が 1 時間程早い。甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳へはいずれも実質の歩行時間だけでも 8 時間前後ほど掛かること。また、下山のバス便の最終が 16:00。その 1 本前の便が 15:00 であること考えると、この朝食時間の設定は山小屋側の配慮かなと感じる。

仙丈ヶ岳からの下りで、山頂から直ぐのところ雷鳥を見ることが出来た。しかし登山道の真ん中で親鳥 1 羽とひな鳥 2 羽が砂あびをしている。ひとが 3~4m 程に近づいてもどこうとしないので、こちらの方は立ち往生。やっとどいてくれハイ松の中に入ってくると、その直後に反対方向から別雷鳥の親子が現れた。お互いに争いごとを仕掛ける風はないが、いずれも泣き声は発している。雷鳥には縄張り意識があるのかなのか良く分からない。



砂あびをしている雷鳥の親子

北沢峠から仙流荘に下るバスの中で、仙丈小屋の支配人と隣り合わせになった。盆休み直前の一番忙しい時に何故下山？と思っていると、明日、ヘリコプターでの荷揚げがあり、その準備のためだという。我々も山小屋で良く見かけることがある、あの太いロープで編んだ荷袋使う。吊り上げる一回の量は 500kg。それを数回連続して荷揚げするのだが天候条件が一番心配という。ふもとのヘリポートから標高が 3,000m 近い山小屋まで、ヘリはたったの 4 分で到達するという。

甲斐駒ヶ岳は甲斐の国と信濃の国の伊那郡との国境に位置する。北沢峠から仙流荘へ下るバス便の運転手に、伊那市側の人にも意地があるので「甲斐駒ヶ岳」のことを「東駒ヶ岳」と言うんだと教えられた。特に市長の意地が強いらしい。仙流荘で休憩していると、そこに張り出してある甲斐駒ヶ岳をパックにした大きなポスターの下隅には、確かに「東駒ヶ岳」と記してあった。しかしながら、休憩を終えて外に出、仙流荘の駐車場に止めてあるバスのフロントを見てみると、ツアー名には「甲斐駒ヶ岳・仙丈ヶ岳」記されていた。伊那市長さん、悔しいですね。

◆メンバー：K、Shiba、他 1 名

◆コース：(8 月 6 日) 北沢峠~長衛小屋~仙水峠~駒津峰~甲斐駒ヶ岳~駒津峰~双児山~北沢峠

(8 月 7 日) 北沢峠~西側ルート~大滝頭~小仙丈ヶ岳~仙丈ヶ岳~仙丈小屋

(8 月 8 日) 仙丈小屋~馬の背ヒュッテ~大滝頭~巻道ルート~北沢峠

◆所要時間/歩行時間：(8 月 6 日) 9 時間 50 分/8 時間 00 分、(8 月 7 日) 5 時間 55 分/5 時間 00 分、(8 月 8 日) 2 時間 40 分/2 時間 30 分